

# 上映作品紹介

B3 教室

B10 教室

1日10:30 2日10:30

## 沖縄戦よみがえる戦場 ～読谷村民 2500 人が語る地上戦～



NHK 沖縄 / 2005 年 / 46 分  
沖縄戦では、20 万人以上の命が奪われた。集団自決や日本軍による虐待なども起こり、生き残った人々は長く記憶を封印してきた。この悲劇を風化させないために、読谷村では、14 年がかりで 2500 人の村民の証言を戦時記録にまとめた。過酷な体験を強いられた人々の視点で、沖縄戦の実態に迫る。

1日11:30 2日11:30

## 遅すぎた聖断 ～検証・沖縄戦への道～



琉球放送 / 1988 年 / 40 分  
敗戦の色が濃くなった時、元首相の近衛文麿は「国が壊滅する前に降伏すべき」と昭和天皇に進言する。だが昭和天皇は「降伏するのは、もう一度戦果をあげて、日本に有利な条件にしてからだ」と、近衛の進言を突っぱねた…。

1日15:00 2日15:55

## 心にカギをかけていた ～沖縄戦 PTSD～



琉球朝日放送 / 2014 年 / 50 分  
無残な死体の山。そのうえを這う蛆虫。沖縄戦の悲惨な光景が 70 年たった今なお、戦争体験者たちの脳裏に浮かび、広大な米軍基地の存在が、その悲惨な光景を呼び起こす。

1日13:35 2日14:30

## 裂かれる海 ～動き出した基地建設～



琉球朝日放送 / 2014 年 / 50 分  
2014 年 5 月。辺野古の海で年に一度のハーリー大会が開かれ、地域住民が一つになって盛り上がった。だがその数か月後、政府は新基地建設の海底ボーリング調査を 10 年ぶりに強行。住民は再び基地建設への反対と賛成とに引き裂かれた。

1日14:30 2日15:25

## 辺野古 もう一つの情景



琉球放送 / 2014 年 / 25 分  
国が普天間基地に代わる新基地建設を計画している名護市辺野古。ベトナム戦当時多くの米兵でにぎわった目抜き通りのバーやスナックは、今や廃墟と化してしまっている。働く場のない若者たちは故郷を離れるしかない。新基地建設反対の声が勢いを増す一方で、「かつてのにぎわいを取り戻したい」と、交付金などの条件付きで新基地建設を容認する人々を追った。

1日13:10 2日13:10

## 悲風に吹かれて ～兵士は 50 年待っていた～



沖縄テレビ / 1995 年 / 49 分  
陸軍野戦病院跡の南風原町黄金森の壕から掘り出された一体の日本兵の遺骨…。遺品の万年筆に刻まれた「大谷」という名を手掛かりに、遺骨の身元を探し出す調査が始まる。

1日14:05 2日15:00

## 消したい過去 消せない真実 ～文科省 疑惑の教科書検定～



琉球朝日放送 / 2007 年 / 50 分  
沖縄戦での軍の強制による住民の集団自決…。数多くの証言があるにも関わらず、2007 年の文科省の教科書検定で、高校の教科書から「日本軍による強制」の箇所が削除されることになった…。

1日10:30 2日11:25

## 忘りたい 忘れてほしくない ～石川米軍機墜落事故から 50 年～



琉球朝日放送 / 2009 年 / 50 分  
石川の宮森小学校に米軍機が墜落した事故から 50 年一。遺族が初めてその口を開いた…。新たな証言で、事故の悲惨さとともに、人権がないがしろにされた米軍統治時代の理不尽さが浮かび上がる…。

1日11:25 2日12:20

## 他策ナカリシを信ぜムト欲ス ～そして核の密約は交わされた～



琉球放送 1997 年 / 73 分  
沖縄返還を政策の柱に掲げた佐藤総理は、ニクソンの思惑を探らせる為、国際政治学者の若泉敬を密使として米国に送り込む。裏交渉でニクソンが突き付けた返還の条件は「基地の自由使用と緊急時の核再持込み」だった。

1日15:00 2日15:55

## 枯葉剤を浴びた島 ～ベトナムと沖縄 元軍人の証言～



琉球朝日放送 / 2012 年 / 48 分  
ベトナム戦の時に米軍によって使用された枯葉剤…。直接浴びた者はもちろんのこと、その被害は子や孫の世代にまで及ぶ。その枯葉剤が沖縄でも使用されたという事実が、元米軍人によって明らかにされた。基地から受ける被害は県民が健康に暮らす権利さえ奪いってしまう。基地が居座り続ける沖縄では、まだ戦後は終わっていない…。

2日14:05

## むかしむかしこの島で



沖縄テレビ / 2005 年 / 48 分  
沖縄戦のさなか、米軍によって撮影された 8 ミリ映像。その映像の中に、自分自身や家族、知人の姿を見つけた人々の脳裏に、あの時の記憶が生々しくよみがえる…。

1日12:15 2日12:15

## 戦争を笑え ～命の御祝事さびら！伝説の芸人ブーテン～



沖縄テレビ / 2006 年 / 48 分  
終戦直後、打ちひしがれていた人々に、笑いで生きる希望を与えた小那覇舞天。「生きていることを喜ぼう。笑うことで命のお祝いをしよう (ヌチヌグスージサビラ)」。その精神は、今なお沖縄の人々の心に息づいている。

1日15:55 2日10:30

## 琉球を奪還せよ！ ～台湾軍の沖縄出兵 in'72～



琉球放送 / 1995 年 / 46 分  
沖縄返還前夜、台湾国民党政府の NO.3 で中琉文化経済協会理事長の方治は、激高して言った。「琉球は日本ではない。独立国だ。軍隊を派遣してでも琉球を取り戻す！」。

1日12:45 2日13:40

## メディアの敗北 ～沖縄返還をめぐる密約と12日間の闘い～



琉球朝日放送 / 2003 年 / 45 分  
沖縄返還に伴って米国が支払うべき復元保障費を日本政府が肩代わりしていた密約…。それをスクープした記者が、機密漏えいで逮捕された。「国家の嘘」を暴いたスクープは、「男女のスカンダル」報道にすり替えられていく。